

## がん診療における漢方薬に対する薬剤師の実態調査

○伊藤 亜希<sup>1</sup>、今津 嘉宏<sup>2</sup>、味澤 佑美<sup>2</sup>、宗形 佳織<sup>2</sup>、沢井 かおり<sup>2</sup>、徳永 秀明<sup>2</sup>、松浦 恵子<sup>2</sup>、渡辺 賢治<sup>2</sup>、伊藤 壽記<sup>3</sup>、大坂 巖<sup>4</sup>、大野 智<sup>5</sup>、坪井 正博<sup>7</sup>、所 昭宏<sup>6</sup>、奈良林 至<sup>8</sup>、宮部 貴識<sup>6</sup>、住吉 義光<sup>9</sup>、兵頭 一之介<sup>10</sup>、山下 素弘<sup>11</sup>(<sup>1</sup>青山薬局、<sup>2</sup>慶應大医漢方医学センター、<sup>3</sup>阪大院医生体機能補完医学講座、<sup>4</sup>県立静岡がんセンター緩和医療科、<sup>5</sup>早稲田大先端科学健康医療融合研、<sup>6</sup>近畿中央胸部疾患センター・支持・緩和療法、<sup>7</sup>神奈川県立がんセンター呼吸器外科、<sup>8</sup>埼玉医大国際医療センター、<sup>9</sup>江東病院泌尿器科、<sup>10</sup>筑波大院人間総合科学研、<sup>11</sup>四国がんセンター呼吸器外科)

【目的】国民の2人に1人はがんに罹患し、3人に1人はがんで亡くなる現在、政府もがん対策基本計画を打ち立てている。今回はがん診療において漢方薬に対する薬剤師の実態調査を行った。【方法】全国がん(成人病)センター協議会加盟施設32施設、がん診療連携拠点病院347施設、東京都認定がん診療病院10施設、「がんの代替医療の科学的検証に関する研究」班の班員が所属する4施設の計393施設に調査の依頼を行った。協力回答が得られた施設にアンケート用紙を送付し、回収したものを解析した。【結果】協力施設は116施設、有効回答は医師909名、薬剤師708名であった。今回の調査対象の施設で、がん患者に対して漢方を処方したことがある医師は73.5%であった。しかし、その漢方薬の処方意図が分かると回答した薬剤師は25.6%であった。漢方医学を勉強中または勉強したことがある薬剤師208名のうち、処方意図が分かると回答したのが43.8%であった。漢方薬生薬認定薬剤師を取得しているのは11名であったが、処方意図が分かると回答したのが8名であった。漢方医学を勉強したことのない薬剤師は、全体の69.4%を占めており、そのうち53.1%は機会があれば勉強したいと回答した。【考察】多くの医師ががん患者に漢方薬を処方していたが、その処方意図を理解している薬剤師はわずかであった。また、漢方医学を勉強したことがないと答えた薬剤師は多く、そのうちの半数近くが、機会があれば勉強したいと回答していた。よって、漢方医学を勉強できる教育環境を整え、患者に漢方薬を説明できるよう教育されなければならないと考えられる。漢方薬生薬認定薬剤師の取得者は今回の調査では少なかったが、処方意図が分かると回答した割合が多かったことから、漢方薬生薬認定薬剤師の取得制度も学習の一つとして期待できる。